

# 道徳科学習指導案(1年1組)

令和3年11月16日(火)第5校時 (教室) 指導者

## 授業改善の視点

主人公のみそさざいが、迷い悩む気持ちや、やまがらの涙を見たときの思いを考えさせる場面で、お互いの意見を交流させ価値に迫る発問をすれば、児童は友だちの立場や状況を考え、仲よくすることのよさに気づくことができるであろう。

1 主題名 みんなとなかよく 「二わのことり」 B(9) 友情、信頼

## 2 目標

みそさざいの気持ちから、友だちのことを思って大切にすることの喜びに気づき、友だちと仲よくしようとする心情を育てる。

## 3 学びのつながり

- 学習指導要領における位置 [B(9) 友情、信頼]の系統

本題材は以下の内容を具体的に構成したものである。

小学校内容項目B[主として人との関わりに関すること]

[B(9) 友情、信頼]の系統

低学年	友達と仲よくし、助け合うこと。
中学年	友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。
高学年	友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。
中学校	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

- 東連携型小中一貫校の道徳の指導の重点

○議論を通して多様な考え方に触れさせたり、自身の考え方を振り返らせたりする。

【これまでの学び】

【ここでの学び】

ここでは、「二わのことり」の読み物資料をもとに、二わのことりの心情を通して、友だちと仲よくし助け合う友情信頼について考えることができる教材である。今日が誕生日のやまがらの家に行こうか、うぐいすの家に行こうか迷い葛藤するみそさざいの気持ちを考えることを通して、友だちとお互いの気持ちを考えて仲よくする大切さを育てていくようにする。そして、日常生活の様々な場面でお互いを認め合い、優しく思いやりの気持ちをもつことが、よりよい人間関係を築いていくために大切であることに気づかせ、相手の立場に立って考え、困っている人を励ましたり、助けたりしていこうとする心情を育てていきたい。

【このあとの学び】

このあとは、帰りの会で行っている「今日のきらりさん」のコーナーで、友だちに優しくしてもらったり、助けてもらったりしたことを発表する活動を継続していく。また、友だちのよいところを見つけたり友だちに感謝の気持ちを伝えたりする「ハッピーハートフルツリー」の活動を継続して行い、身近にいる友だちと一緒に仲よく活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さをさらに実感できるようにしていく。

そして、2年生では「およげないりすさん」「モムンとヘーテ」「なかよしでいたい」という資料を活用して友だちと仲よくし助け合おうとする心情を育てていく。さらに、中学校では、友情の尊さを理解して心から信頼で

きる友だちをもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を築いていこうとする心情を育てていく。

#### 4 指導方針（◎学びのつながり【 】生徒指導の3機能）

〈導入では〉

◎友達がいてよかったことを思い出し、これまでの経験を振り返り思い出させることでねらいとする価値の方向付けを行う。

〈展開では〉

- ・視覚に訴えることができるように、紙芝居にして資料を提示し、登場人物に対する興味関心を高め、登場人物の気持ちに共感しやすくする。
- ・資料の流れがわかりやすいように場面絵を掲示し、キーワードとなる言葉やみそさざいややまがらの心情を板書するようにする。
- ・発問をあらかじめカードに書いておき、すぐに提示することで、児童が思考する時間を多く設けられるようにする。
- ・自分の考えを明確にするために、ワークシートに記入したり、黒板にネームプレートを貼ったりする。

【自己存在感】

- ・中心発問では、自分の考えを深められるようワークシートに書く時間を十分確保する。【自己決定】
- ・作業の遅い児童には、声をかけて聞き取り、文章にできるように支援する。
- ・友だちの発表を聞く場面では、多様な考えに気づけるよう話し手の方を向き友だちの意見に対して受容的、共感的な態度で聞くように促す。【共感的人間関係】
- ・教師がやまがら役になり、児童がみそさざい役になって役割演技をすることで、道徳的価値の自覚を促す。
- ・仲間がどのような考えをもっているのか把握できるよう、同じ考えの児童には、挙手をさせる。

【自己決定・自己存在感】

〈終末では〉

- ・めあてを振り返り、価値に迫れた児童を意図的に指名することで、実践への意欲付けを図る。

#### 5 人権教育との関わり

東中学校区では9年間を見通した人権教育の主題を「自己肯定感を高め、他者を認めることのできる児童の育成」とし、その手立てとして生徒指導の3機能を授業に位置づけることとしている。そこで、本時の生徒指導の3機能の位置づけを以下のように考えている。

これまで各教科の学習で隣どうしやグループやクラス全体で友達と考えを交流する活動を行い、お互いの考えを知ったり多様な考えに触れたりしながら、1年生なりに自分の考えを広げていく経験をしてきた。【自己決定】そして、自分の考えたことを隣の席の友だちやグループの友だちと発表し合ったり、感想を伝え合うことで一人一人が授業に関わっている気持ちをもつことができる。【自己存在感】さらに友だちと交流し合い感想を伝え合ったりすることで相手のよさを見つけ、お互いに認め合い学び合うことができる。【共感的人間関係】

このような学習活動を通して、「互いのよさや違いを認め、多様な価値観を理解する。(知性)」「自分だけではなく、だれにとっても気持ちよく過ごすために必要なことに気づき、進んで行動に移すことができる。(実践力)」を育てていきたいと考える。

#### 6 本時の学習

(1) ねらい

やまがらを思うみそさざいの気持ちを考え意見交流することで、友だちのことを思って大切にすることを喜びに気づき、友だちと仲よくしようとする心情を育てる。



(2) つなぎ教材


①教材名 紙芝居 場面絵 ペープサート

②目的 紙芝居や場面絵を用いることで児童が教材に興味をもって教材理解ができるようにする。

③つなぎ方 話の流れに沿って場面絵やフラッシュカードを提示していく。

(3) 展開

<b>学習活動</b> ○主な発問 ◎中心発問	<b>予想される児童の反応</b> ◎学びのつながり ※授業中の生徒指導3機能	<b>時間</b> (分)	<b>指導上の留意点と評価</b>
1 今までの友だちとの関わりについて振り返ることを通して、めあてを確認する。	◎ 自分の誕生日をどう祝ってもらったのかを思い出させ発表させる。 ・うれしい。 ・みんながおめでどうって言ってくれた。 ・お母さんありがとう。	5	・これまでの経験を思い出させる。特に誕生日を祝ってもらうとどんな気持ちがするの考えさせ、発表させることで価値の方向付けを行う。
めあて      ともだちをたいせつにするということは どういうことだろう。			
2 「二わのことり」を聞いて話し合う。  ○みそさざいはどんなことで迷っていたのだろう。   ◎どうして、みそさざいはそっと抜け出してやまがらのところへ行ったのだろう。 ・ワークシートに考えを書いたあとで、となりどうしで交流する。 ・全体で確認する。  ○涙を流したやまがらさん	・やまがらの誕生日だから行ってあげたい。 ・うぐいすの家は楽しそう。 ・みんながうぐいすの家に行くから。 ・うぐいすのうちは音楽会の練習があるし、明るいから。 ・うぐいすのうちにいった方が楽しい。 ・うぐいすのうちはごちそうがあるから。 ・やまがらのうちは山奥の大きな木の穴で、さびいところにあるから。  ※児童の意見にネームプレートを貼る。 【自己存在感】  ・やまがらの気持ちを思うと楽しくない。 ・やまがらは寂しい山奥で待っている。 ・誰も行かなかったら悲しいだろう。 ・やまがらは誕生日なのに一人であることはつらい。きっと来てほしいと思っている。 ・やまがらのことが気になって楽しくない。 ・楽しく遊んでいるみんなに迷惑をかけないようにこっそり行こう。 ・今行くから待っていてね。 ・ひとりぼっちにさせてごめんね。 ・かわいそうなことをした。 ※それぞれが考えたみそさざいの気持ちを発表し合う。【自己決定】【共感的人間関係】 ※友だちが発表しているときには、発表者の方を向いて、うなずきながら聞くようにさせる。 【共感的人間関係】 ・さびしかったよね。	30	・紙芝居にして資料を読み聞かせ場面を把握させ、みそさざいの迷いや悩む思いがわかるように教材を提示する。 ・物語のあらすじは、教師が場面絵やカードを貼りながら丁寧に確認していく ・「やまがらはどんな気持ちで誕生日の招待状を書いたのか。」と問いかけることで中心発問の考えを深められるようにする。 ・自分の思いを優先することと、友だちの気持ちを考えることで悩むみそさざいの思いを自分のこととして考えさせる。 ・児童が思考を整理し、考えを深められるよう、意見を整理して板書するようにする。 ・児童の意見にネームプレートを貼ることで、他者理解を図れるようにする。 ・中心発問では、多様な考えを導けるよう、みそさざいの行動の理由を問う発問で考えさせる。 ・うぐいすの家で楽しくなかった思いを考えさせることで、みそさざいの心情の変化に気づかせる。  ・児童がみそさざい役、教師が

を見て、みそさざいはどんな言葉をかけただろう。 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(涙を見て)やっぱり、来てよかった。</li> <li>・最初から来てあげればよかったな。</li> <li>・君が来てくれて嬉しいよ。ありがとう。</li> <li>・よく来てくれたね。</li> </ul>	やまがら役になり役割演技をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割演技を見ている児童には「二羽の小鳥はこれからどんな友だちになっていくのでしょうか。」と問いかけ価値を把握する。</li> </ul>
3 今日の学習について振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちを大切にすることはどういうことなのか、ワークシートに書く。</li> </ul>	10

(4) 板書計画

どうして、みそさざいはそつとぬけだして、やまがらのところへいったのだろう。

ともだちをたいせつにすることはどういうことかな

みそさざい

- ・うれしい
- ・ありがとう
- ・よくきてくれたね
- ・きてよかった
- ・さいしょからきてあげればよかったな。
- ・ともだちっていいな

やまがら

- ・たのしくない
- ・やまがらはまっているだろう
- ・そつとぬけていこう

うぐいす

おんがくかいのれんしゅう  
うめのはやし  
あかるいところ

みそさざい

- ・うぐいすのうちはたのしそう。
- ・うぐいすのうちはごちそうがある。
- ・やまがらはたんじょう日だからいってあげたい。

やまがら

たんじょう日  
山おくのさびしいところ

おいわいをするから  
きてください